



群馬県太田市にある県立がんセンター

がんの診断・治療・研究・教育において、群馬県の地域医療をリードする病院である群馬県立がんセンター。日々多くのがん患者さんの治療を行っているこの病院で放射線腫瘍医として働く岡崎祥平先生にお話を伺いました。

―― いまの職場について教えてください

群馬県立がんセンターは決して大規模の病院ではありませんが、がん診療に特化しており、専門性の高いがん診療を多く行っています。診療科の垣根が低く、穏やかな先生方が多いので、他科にも気軽に相談しやすい風土があります。

また、看護師や薬剤師、放射線技師、事務、MSWなど各職種のスタッフが高い専門性を活かして働いており、皆で協力して1人の患者さんの診療を行っています。そのため、医師は自分の専門知識を活かした診療に集中でき、働きやすい職場だと感じています。多くのス

タッフが患者さんに寄り添って診療を行っており、患者さんからの評判も良い印象です。

放射線治療部門には私を含めて3人の常勤医師がおり、部長の北本先生ご指導のもと多くの患者さんの放射線治療を担当しています。群馬大学のように重粒子線治療などはできませんが、通常のX線照射だけでなく強度変調放射線治療(IMRT)や定位放射線治療(SRT)、腔内照射、内用療法など幅広い放射線治療を経験することができます。

―― 仕事内容を教えてください、指導はどうですか？

放射線治療部門では3名の医師で手分けして放射線治療患者さんの初診、同意取得、放射線治療計画、治療中の管理、治療後の経過観察を行っています。科内で1つのチームとして診療を行っており、1人が忙しいときには他の医師が代わりに仕事を請け負うなど、お互いに助け合って仕事をしています。

北本先生、村田先生ともに放射線を照射して終わ

りではなく、患者さんを全人的に診療し、個々の患者さんにとって放射線腫瘍医としてどうするのがベストなのか考えていくスタイルなのでとても刺激を受けています。今までそれなりに臨床経験を積んだつもりでしたが、北本先生や村田先生と比べると、私もまだまだ経験や考えが浅いなど痛感させられる日々を送っています。

週間スケジュール

	AM	PM
月	再診	再診・消化器CB
火	新患	新患
水	照射中診察	照射中診察・肺CB
木	小線源・血液CB	小線源
金	再診	再診
土	休日（交代で病棟当番）	
日	休日	

※その他、病棟対応、治療計画など適宜

ある一日のスケジュール (月曜日)

8:00	病棟回診
8:30	治療室カンファレンス
9:00	再診外来
12:00	昼休憩
13:00	再診外来
16:30	放射線治療計画
17:00	科内カンファレンス、新患チェック
18:00	消化器CB
19:00	病棟回診、終業



群馬県立がんセンター（群馬県太田市）
病床：314床
放射線治療科：常勤3人、非常勤1人
年間放射線治療患者数：500-600人程度

--- やりがいを教えてください。また、大変なことはありますか？

群馬県立がんセンターに赴任してからは質を重視して診療を行っています。北本先生にご指導をいただきながら、患者さんを画一的に放射線治療をするのではなく、患者さんを時間をかけて診察した上で最も適切と思われる治療を選択します。検査結果だけに頼らず、身体所見や全身状態なども重視して治療を計画します。考えることが多く大変ではありますが、患者さんから感謝されることも多く、やりがいを感じています。

また、当院では今年から神経内分泌腫瘍に対するル

タテラ(Lu-177)投与を開始しました。全国でまだ治療施設が少なく、当然私も未経験でしたが、現場の実務を担当させていただきました。手探りの状態で一から覚えることも多く、かつ投与ルートが複雑でしたので、不安もありましたが、今年2月に1例目の患者さんに無事に投与を行うことができました。このようにゼロの状態から築き上げる体験ができ、大変ではありましたが面白さとやりがいを感じました。

--- 岡崎先生はなぜ放射線治療医の道に進むと決めたのですか？

私は学生時代、どの科に進むかあまり考えていませんでした。というよりは、学生時代の私はあまり勉強が得意ではない劣等生でしたので、どの科に行っても適性がないのではないかと考えていたんですね。ただ、コンピュータとか近年のテクノロジーには興味があって、手術

しなくてもがんを治すことができる放射線治療の特性やコンピュータを使って治療計画をするところに魅力を感じて、放射線治療の道に進むことに決めたのです。学問的なところに興味を持ったのは、放射線腫瘍医になって実際に患者さんを治療するようになってからです。

--- 研修先や入局先を選んだきっかけを教えてください

私は栃木県の足利赤十字病院で初期研修を行いました。急性期病院の足利赤十字病院では放射線治療の研修はあまりできませんでしたが、その代わり内科・外科の救急患者を対応することが多く、専門にかかわらず必要な基本的手技や初期対応の知識は身

についたかと思っています。

初期研修医時代は充実した毎日を送っていましたが、栃木県の病院なので周囲に知っている人が少なく、少し寂しさも感じていました。それもあって母校の群馬大学の放射線科に入局することにしました。

--- 学生・研修医へメッセージをお願いします

臨床を頑張りたい人、研究に打ち込みたい人、プライベートを大切にしたい人、がん治療に興味がある人、多くの患者さんと接したい人、最先端の治療技術に関わりたい人・・・人によって目指すベクトルや目標が違ふと思います。放射線科は各自の個性を尊重し、大

切にしています。そして、その個性を使って活躍できる場が放射線科には必ずあります。

放射線科に興味が少しでもあれば、ぜひ一度見学しに来てください。

治療装置紹介 Clinac 21EX, Novalis Tx (Varian社)



Novalis Tx

通常の放射線治療だけでなく、強度変調放射線治療(IMRT)や定位放射線治療(SRT)、画像誘導放射線治療(IGRT)、呼吸同期照射など幅広い照射技術に対応した治療装置です。

お話をうかがったひと



岡崎 祥平先生

入局年 平成27年

好きな食べ物 麺類

マイブーム

データサイエンス、AI など